

# デリパコパーティー♡ ぶたきゅあ

悪堕ち  
洗脳  
ふたなり

ちんぽは笑顔♡

分け合うザーメン♡

R18  
ADULT ONLY  
成人向け作品につき  
18歳未満閲覧禁止



ちんぽ汁♡

デリシャ  
スマイル♡



私♡  
和美ゆい

おちんぽ  
セックス大好き  
○学二年生♡

今日のお話は  
生まれ変わった  
私たちがドスケベ  
大活躍するお話だよ♡

テレビの前のみんな  
おちんぽにぎにぎ  
ティッシュをいっぱい  
用意して見てね♡

♡

おちんぽ

♡

HEI

おちんぽ

お話は私が  
捕まったあの目から  
はじまるよ

ペーニッツ様は  
あなたをご所望です

キュアプレシヤス

.....  
我がモノとなれ

ふふッペーニッツ様が  
率いるこの  
ブンドル団に代わる  
新しい団

チンポル団

プリキュア...  
キュアプレシヤス

ペーニッツ様がこの団に  
必要とされているのは  
性欲旺盛で優秀な牝♥

選ばれたことを  
喜ばなさい  
キュアプレシヤス

よくわからない  
けど

.....



あなたは 自身の中にある本能に 抗えるでしょうか？

私... 負けないから



ていうか私が無理だったんだから無理にきまってるっつーの

かほ♡

いい顔だ  
キュアプレシヤス

プリキュアとして所詮はメス：欲本能には抗えない抗う必要もない



ふふりそうです  
良いですね  
良い吸いっぷりですよ  
キュアプレシヤス

ペーニッツ様の種♡  
あなたが今まで飲んだ  
どんなものより  
おいしいのではないですか？



もっと  
欲をむすほれ

キュアプレシヤス



かほ♡

それでそろそろ  
決意は  
固まりましたか？

ほんぼ  
んぼんぼん

けけ  
けちめい

Py

もちろん仲間を裏切り  
チンポル団の一員として  
ペーニツツ様の  
下僕になる決意です♥

ぞ…んなころ  
おあつ♥  
できな…あう♥

ふふ…本当に  
良いのですか？

ここで断れば  
もうその  
おちんぼ様は  
二度とあなたの  
中には入らない

へ…？  
ちんぼ  
このちんぼ

に…  
にころん

ええ♪  
二度と…

んぼ

んぼ

んぼ



あつあつ  
ちんぽで

ペーニッツ様の  
おちんぽ大好き  
ブタキュア

みなぎる  
ぱわー♡

キュアプレシヤス♡

おいしい  
ドスケベで♡

満たして  
あげる♡





あく♥おまんこ  
はらぺこだったあ♥

ふっ…  
変わったばかりだ  
腹も減る

その飢え存分に  
満たしてやろう  
来い我がブタキユア  
プレシヤス

…はい♥  
ペーニッツ様

どうだ？プリキユアとしての  
使命・仲間も捨て  
何にも縛られないでする  
セックスは？

あん♥  
しあわせれす♥最高う  
せつくしゅ最高う

これからは毎日  
お腹一杯ドスケベ  
キユアセックスう  
しまくりますう

へっ♥ちんぽお  
デリシヤちんぽお

あ、あ、あ

びん

あ、あ、あ





ゆいぴよん  
ゆい



ごめんね二人とも  
心配かけちゃって

ううん  
本当に無事で  
良かった...



大丈夫なの  
ケガはない!?

うん  
大丈夫!むしろ  
前より元気な  
くらい♡



それじゃあ  
帰ろう

ゆい



はにゃ!!  
早くゆいぴよんの  
無事を帰って  
知らせないと

そして帰って  
帰還パーティだ

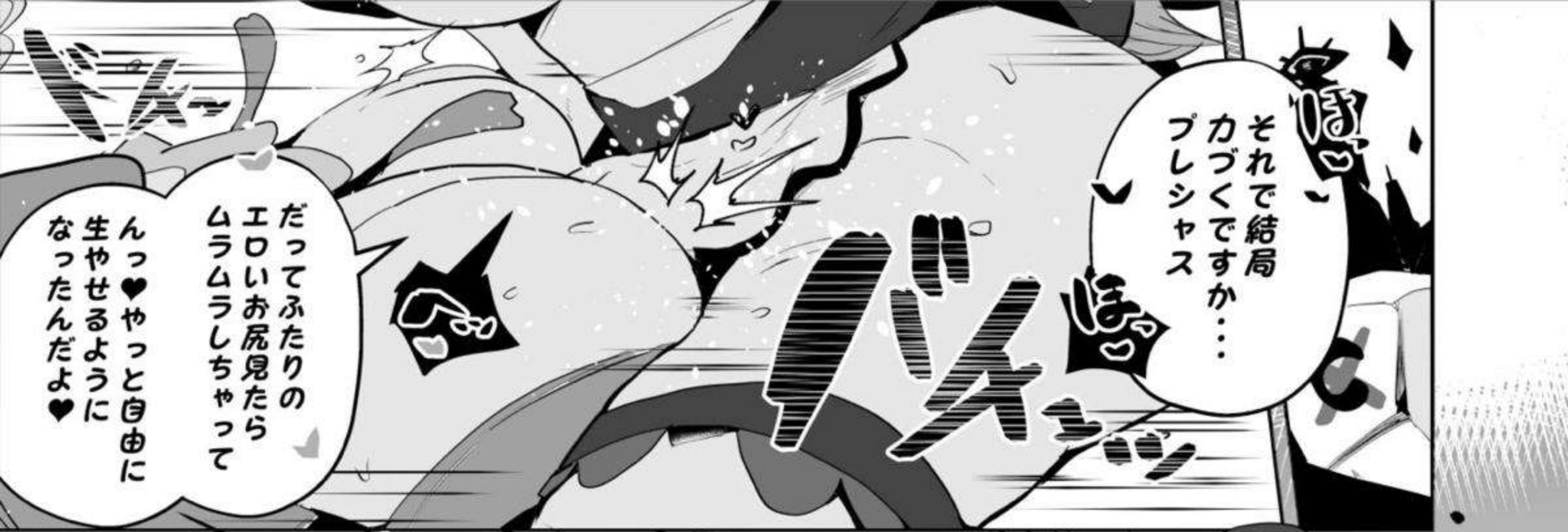
うん  
みんな心配して  
たから...

作戦なんだから  
まだ...我慢  
我慢...♡



ゆい?

私だめだね  
こういうの...  
面倒くさいよ♡



それで結局  
カづくですか…  
プレシヤス

だってふたりの  
エロいお尻見たら  
ムラムラしちゃって  
んっ♡やっつと自由に  
生やせるように  
なったんだよ♡



おほっ♡おおお♡  
キュアふたちんぼ  
二人のキュアまんこに  
ぶちハメするの最高う♪

それにほら  
おばあちゃんも  
言ったから♡

食べたい時が  
食べ時らって♡  
おちんぼセックスも  
一緒だからあ♡

ちんぽ♡

まへ♡

おほ♡

おほ♡

おほ♡

おほ♡

おほ♡

んふうっ♡そろそろ  
でるっ出しますよ♡  
キュアヤムヤムっ  
種付けっ♡あっ♡

こっちもお射精る  
スパイシー♡

私の  
特濃ブタキュア汁  
スパイシーに  
だすからね♡



ほっ♡イッて  
イケ♡スパイシー  
私のキュアちゃんほで  
イケっ♡

キュア精子でイケ  
おっ♡  
イケイケ♡

おほっ♡イケっ  
でりゅっ♡



あへっ♡きもちっ  
スパイシまんこきもちっ  
おおお♡最高♡

ビクン♡

ビク

ぬほっ♡





二人とも  
なめるの  
上手う♥

いはへ  
いはへ

んはっ♥一緒に  
戦った仲間の  
バキューム顔♥

おっ♥やっばっ  
ちんぽにくる♥

ちんぽく...  
ちんぽく



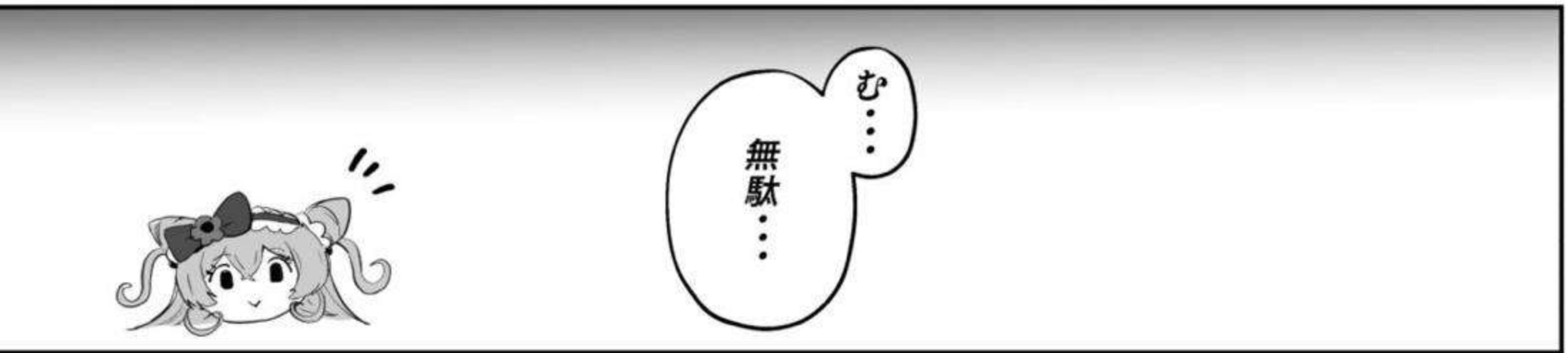






というわけ♡  
下さりませ完了♡





ヤムヤムのほかほか  
まんこにペーニッツ様の  
太デカおちんぼ  
ぶちこんで♡♡

おまんこ  
ほじりまわして  
イキたおさせて  
ください♡

……な……

ちんぽ

まんぽ

ちんぽ

ちんぽ♡

ちんぽ

何してるの!!

ヤムヤム

うるさいな  
ヤムヤムが  
どうしようと  
スパイシーには  
関係ないでしょ?

かゝ関係ある  
私たちはプリキュアなの  
仲間なのよ

…仲間ってw  
たまたまプリキュアに  
なったから  
一緒に戦ってただけだしw

ヤムフ  
ふぎけ……

あふあふ

ちんぽ

分かった  
もういい  
そっちは  
その気なら

あん♥ペーニッツ様あ  
こんな低能バカ女より  
私のまんこにおちんぼ様  
ハメてくださいい♥

トロふわまんこに  
でかちんぼサンドプレス  
キメて♥♥中出し  
アクメさせてくださいい♥

プリーズ  
ファックミー♥  
おちんぼ様あ♥

おちんぼ

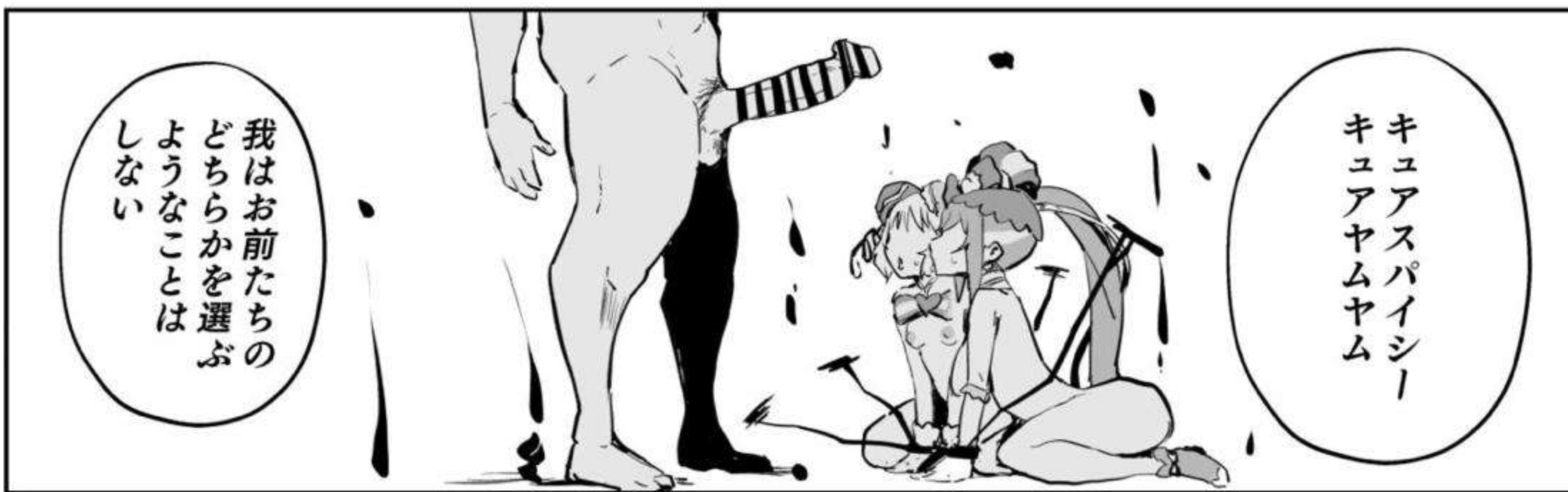
スパイシーっ

フン  
私がブタキュアになったら  
ちんぼ生やして泣くまで  
ぶち狙してやるから  
覚悟して!! ヤムヤム

やめよ

それはこっちの  
セリフだよ!!  
ヤムヤムのちんぼに  
おねだりキスさせて  
土下座させて  
やるんだからっ

うっさい  
ブタ  
死ね



我はお前たちの  
どちらかを選ぶ  
ようなことは  
しない

キュアスパイシー  
キュアヤムヤム



お前たちが  
欲するならば

欲するだけ  
与えよう…



我が性欲は  
無限…



…ヤムヤム  
言いきぎて  
ごめんね

ううん…  
あやまるのは  
こっち…ごめんね  
スパイシー



私たち  
勘違いしてた♡

うんケンカする  
必要なんで  
なかったんだ♡



だって…みんな  
このおちんぽ様の前では  
同じメス豚なんだから♡

あなたに永遠の  
忠誠を誓います♡

ペーニッツ様♡

ふわとろまんこde  
ちんぽにスパイス♡

きらめくばこハメ  
エモーション♡

ペーニッツ様の  
性処理奴隷ブタキュア  
キュアスパイシー

ドスケベセックス  
ハメつけるわ♡

ペーニッツ様大好き  
好き好きブタキュア♡  
キュアヤムヤム

おちんぼの  
ひとり占め  
許さないよ♡



パーニッツ様の  
忠実なメス豚プリキュア  
チンポル団のために働く  
ブタキュアになったの♡

こうして私たちは  
また三人一緒♡

♡

♡♡♡♡♡









へっ♡いいっ♡  
お母さんのまんこ  
さいこおだよ♡

はへっ♡母親まんこに  
ちんぽハメて  
腰ふるのきもち♡



ああもう♡  
ゆい早くかわってっ♡

もう少し  
もう少しだから♡  
待ってよ♡

おほっ♡シコシコ  
でるう♡ゆいびよんの  
親子セックス見れ  
らんらん汁でりゅう♡



おほっ♡ちんぽ  
おほっ♡ちんぽ  
おほっ♡ちんぽ

おほっ♡ちんぽ  
おほっ♡ちんぽ  
おほっ♡ちんぽ

おほっ♡ちんぽ  
おほっ♡ちんぽ

少し想定外のことも  
あったけど

チヤ

いらっしやいませ♥

ガ

こうやって  
オイシーナタウンは  
どんどん  
変わっていったの♥

なごみ亭へ  
ようこそ♥

童貞&  
お子様  
無料  
キャンペーン

ご注文を  
どうぞ♥

どど  
童貞です

トコナ  
オニシ

アッ

まってもう  
ない...  
ストリップ  
すつつぶ

アッ

どど  
童貞です  
アッ



あっ♡見て  
ママ…  
可愛い…

ふふ  
本当ね♪

美味しき♡

入ってみるワ  
なごみ  
どうだい  
お子様  
無料のデザート



ここね♡  
あと一発したら  
交換ね♪

日常にドスケベと  
ちんぽとおまんこが  
あふれるチンポル団の  
理想の町に♡

うん  
ママ♡

どうだい  
おまんこ  
チンポル団

ママちゃん  
チンポル

おまんこ  
チンポル







あっ♡らんちゃん  
キュアスタ  
更新したんだあ

うん♡  
ほらほらこれ  
昨日のなんだけど



わあ!!すごい  
めちやくちゃ  
大きいねこのちんぽ♡  
おいしそ♡

よろしくね  
ちゅるりんちゃん

そうなんだよ  
久しぶりの大当たりで  
らんらん嬉しくなっちゃたよ♡

今日はお  
らんちゃん  
だよ♡



子宮口まで届く長さに  
カリ高の極太ちゃんぽ♥

ぽんぽん

ぽん

ぽんぽんぽん  
ぽんぽんぽん  
ぽんぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん



ねっとりとしているながらも  
繊細で激しい指使い♥

ぽんぽん

ぽん

ぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽん

極めつけは某ラーメンを  
思い出させることってりとした  
濃厚なラーメン汁……♡

ほへ

カキカキ  
おっおっおっ  
おっおっおっ  
おっおっおっ  
おっおっおっ



そのあとも  
テイクアウトして

らんらんの部屋で  
朝まで思う存分  
やりまくって  
大満足だったよ♡

あはは  
いいな♡

ぐっぐっ  
和実でるっ









今日は学校休んで  
ここぴーのお母さんが  
開くおちんぽパーティーに  
行くって♡

んふ♡  
んっちぽ  
かちかち♡

母のパーティーは  
初めてですか？  
楽しんでくださいね♡



洗脳が終わってない  
偉い人も神の舌目当てで  
いっぱいくるから  
チンポル団のためにも  
この日に「ちんぽる」して  
まとめて洗脳しちゃうって

おおい流石  
ここねちゃんだね♡

んふ♡  
んっちぽ♡



昨日彼氏とデート  
らったんでひょ?

ちゅわん  
そういえば  
聞いたらよ  
ゆいひょん♡



んほ  
好き♡  
んほ

もう誰から聞いたの  
らんちゃん  
彼氏じゃなひから♡  
友達らよ!ともらひょ

しゅ

ほんろかな?



今話題の  
セックステーマ  
パーク!!

はーや!!

ようこそ  
**HAMED**  
ハメーディア

ハメーディア  
だよ

それでどこに  
行ったの?



どこから  
まわる〜？

うらん  
とりあえず一発  
してから考えね？

まかせ

うにゅ…らんらんも  
行くうと思ってたけど  
先をこされた

4つのエリアに  
すけべアトラクション  
夢の大人の国♥  
ハメロディアだよー

うん!!カモンようこそ  
おとなさま

中出し  
エリア

無料の媚薬館です  
どうぞ♥



撮影いいですか？

園内は撮影も自由だから  
キュアスタにもいいかも!!

OKです♥

おおっ  
それはちゅるん  
耳寄りな情報…

ちゅるん

腰を振りまくって  
ドスケベエナジーを  
ためて敵に止めをさせ!!

いくぞ  
ゆいぞ

ちほ

どのアトラクションも  
スケベで楽しかったけど

うん：  
うん♡

VRやっぱりおすすめは  
アトラクションかな

ドスケベエナジー  
ためておぼ

ゲームクリア  
おめでとら

すげーよかったw  
もう一回やらね？  
別のクエストで!!

うん♡  
やるやる♡

また  
行きたいな

ビク♡





そうだ今度らんちゃんも一緒にいこうよ♡

キュアスタのおじさんも一緒に♡

はにか♡いく♡



ここねちゃんも誘って...



プンスプ

ああはフンキンのノアは任せろ!!



これって

自休する



本当にいつもいつも  
目ざわり……

ペーニッツ様の  
理想郷に沸く  
ウジ虫

そんなに  
ペーニッツ様の  
私たちの邪魔をして  
楽しい？

ファイナール……

楽しいか……  
と聞かれれば  
楽しいわけでは  
ないよスパイシー

だがプリキュア  
として……  
この町を愛する  
ひとりとして……

これ以上皆が  
汚されるのを  
見過ごせない

君たちが  
ぞうだつたようにだ

ファイナールブーケ！





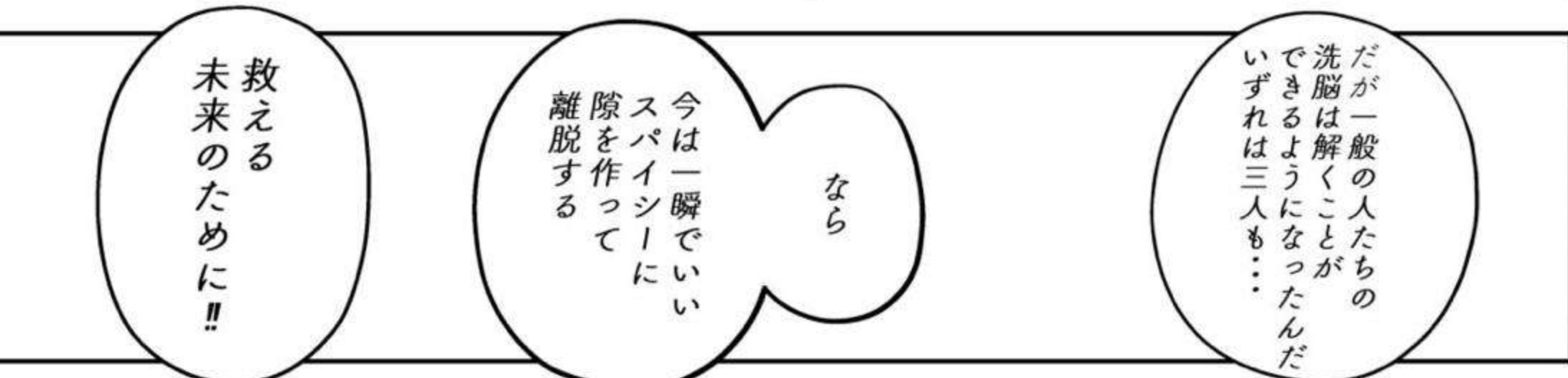


.....  
分かっている

今の私たち  
レジスタンスに  
スパイシー達を  
救う手立てはない



ヤムヤム達が着く前に  
ファイナールが  
終わっちゃうこと♡



救える  
未来のために!!

今は一瞬でいい  
スパイシーに  
隙を作って  
離脱する

なら

だが一般の人たちの  
洗脳は解くことが  
できるようになったんだ  
いずれは三人も...



スパイシー

ねえ...  
ファイナール



いくぞ

洗脳つて素敵な  
言葉だと思わないの？

な…なんだ？  
体がうごか…

あなたの中に  
残るもうひとりの  
あなたの残滓…

それをプリキュアの  
つながりを通して  
すこし利用してみたの♡

キ



ふふ♪綺麗なまんこ  
ここにブンドル団  
だったあなたの  
残滓を集めて

私たちの中にある  
ペーニッツ様の  
お力で育てれば...



こんなことだって  
できる♪



あっ...  
お...  
な...  
な...  
な...  
しう...

あ...  
あ...

モ...  
モ...



あん♡  
新鮮生えたての  
おいしそうなちんぽ♡

さしずめ  
ブンドルちゃんぽ  
といったところかな

それじゃあママの  
神の舌にはおよばない  
かもしれないけど

はじめての  
気持ちよさ楽しんでね  
ファイナーレ♡





ごめん  
遅くなっちゃった

スパイシー  
大丈夫だった？

とと

トッ

トッ



うん♥大丈夫

まんこ

ほっ

まんこ  
まんこ

見ての通り  
もうほとんど  
終わったから♥

まんこ



はにやゝ  
やっぱり…  
でもちよっと  
ちよろすぎない？

まほっ

まんこ

快楽への抵抗が  
異様に低いのもきつと  
ジェントルだったことが  
影響してるんだと思う♥

まんこ  
まんこ  
まんこ

まんこ



ジョイントルビ  
ロズケルに♡

アム誇る  
スウアイトネス

ペーニッツ様のデザート  
おまんこ  
キュアファイナール♡

気持ちいい種付けの  
最後私が飾ろう♡

NO LIFE  
NO  
ちんぽ♡

さっそくの  
レジスタンス掃討作戦  
見事だったな

我が新たな僕  
キュアファイナール

もったいなき  
お言葉♡  
ありがとうござい  
まひゅ♡

ペーニッツしゃま♡

ちんぽ♡  
ちんぽ♡  
ちんぽ♡



四人そろったことで  
この世界において  
プリキュアが真の意味で  
我がメス豚の  
代名詞となった

これからもその名に  
恥じぬ働きを  
期待しているぞ

はい♡私たち  
デリパコパーティ♡  
ブタキュア

次は私が  
いいな♡

全てを  
ペーニッツ様のために♡

おねり♡

# デニムパンツをぶつぎやぶたきめめ

日高久志

「た、大変なことになったわよっ！侵略よっ！侵略よっ！侵略よっ！変態女達が押し寄せてくるわっ！」

「いきなりどうしたって・・・要領を得ないな」

「変態・・・女？」

その朝、ローラが慌ただしくトロピカル部の部室に駆け込んだ。

テンションMAXで息を切らすその様子は、只事ではないとわかる。

だがあすかもみのりも、訳も分からず戸惑っている。

「変態は変態よっ！」

丸出しというか・・・何というか・・・」

「丸出し！どこが？どこが？」

まなつに至っては興味津々で目をキラキラさせて聞いてくる。

変態に耐性もなければ、知識もないので純粋な好奇心を發揮していた。

「気になるから早く教えて！ね、さんごも気になるでしょ？」

「え・・・そ、そうかな・・・」

変態に少し心当たりがあるのか、話をふられたさんがが気まずそうにしている。

「今朝・・・ヒーリングガーデンから」

グランオーシャン宛に連絡があったの。

向こうのプリキュアからね。

そしたら・・・チンポル団とかいう変態女の集団が、いろんな世界のプリキュアを襲っているっていうじゃないっ！

私達もターゲットになってるかも知れないから気をつけるって言われたの！」

「・・・ということは・・・」

すぐにでもその・・・チンポル団が現れる訳じゃないってことか・・・？」

「忠告されるってことは」

危険なかも知れないけど・・・対策する時間があるからの忠告・・・ととれる」

少ない情報からでも、冷静で正確な判断が出来るのは、あすかとみのりの凄いとところだ。

ローラやまなつの苦手とする分野でもある。

「そんな悠長なこと言ってる場合じゃないのっ！」

すぐにでも戦う為の準備をしなきゃっ！」

「なら・・・その・・・チンポル団っていうのが、」

どんな敵なのか教えて欲しい。

教えてもらったんだろ？」

腕組して、向き合う姿勢になったあすかに、ローラ

は少しシドロモドロしながら、「そ、それはそうなんだけど・・・」と言葉を濁した。

「きゅ、キュアグレースに直接、教えてもらおうわ！」

そう言いながら、オーシヤンプリズムミラーを

そそくさと取り出す。

鏡面が光り、そこにキュアグレースが真剣な顔をして現れた。

「チンポル団について・・・お尋ねしたいって聞きました。

幸い、私達は無事ですが・・・キュアエール達は

酷い目にあって・・・」

ブタキュアにされてしまいました・・・」

かなり切羽詰まったような言葉尻に、皆気圧されたようになる。

ミラーからリアルな映像が投影して、整列して並んで歩く5人が映し出された。

真ん中に立つ、野乃はなを中心にさあや、ほまれ、えみる、ルールーが糸乱れぬ動きで戦場に現れた。

空中では半裸に近い黒いプリキュアと、

キュアスター達が戦っている。

それを見上げた、はな達は揃って漆黒のクリスタルを掲げた。

「ミライクリスタル！ハート、キラつと♪」

突然地面から浮かび上がった黒い液体が5人の身体を覆い尽くす。

そして、幕が上がるようにスルスルとまた地面に消えていった。

「なんだ・・・！？こ、この姿はっ・・・！！」

映像を見ていたあすかが思わず声をあげた。咄嗟にまなつ達に見せないように隠そうとする。

だが手遅れだった。

お揃いの黒いポンポンを持って、お揃いの変態フォームに変身したエール達が大きく映し出された。

乳房は丸出しになっていて、お尻も剥き出しだ。目のやり場に困る格好だが、エール達は胸を張って顔を上気させていた。

そして何より・・・その股間には、あり得ないモノがおっ勃っていた。

「あ・・・あれってオチンチンっ！？何で女の子のエールに？」

当然の疑問だが、まなつにそれをちゃんと説明出来るほど、あすかも大人じゃない。

「輝くミライを抱きしめてっ！  
パコハメを応援！」

元気のブヒブヒ豚鳴きコール！キュアエール！

「無様な媚び芸で皆を癒す！  
オチンポ様さえあればいい！キュアアンジュ！」

「嬉ションを撒き散らす輝き！  
どんな敵でもご主人様の為なら力づく！  
キュアエトワール！」

「みんなでペーニッツ様にご奉仕！ハーレムプレイで愛を深める！  
キュアマシエリ！」

「キュアアムール！」

と、それぞれ変身口上を振って、媚びる彼女たちの姿は痛々しい。

「フレフレッ！ブタキュアっ♪  
フレッ、フレッ！！ブタキュアっ♪」

ポンポンを振って踊りながら、仲間を応援するキュアエール達。

あすか達はもう絶句するしかなかった。勃起したフタナリチンポも、その踊りに合わせてブルブルと揺れていたからだ。

しかもその鈴口からは、先走り汁が糸を引いている。応援が利いたのか、黒いプリキュアがキュアスター達を地面に叩き落とし、羽交い締めにした。

「ワン・フォー・オール♪」とアムールがアへ顔になりながら叫ぶ。

「ウイー！アー♪」とエトワールは力強い。ただい

「ブター！キュアアー♪」と乳房までブルブル震わせるアンジュの卑猥さ。

「あしたにー！エールをー♪」と締めにかかるエール達の応援は最高潮に達していた。

「ゴー・・・ファイッ♪イクウウウッ♪」  
「ブピユルウウッ！！ブピユッ・・・ブピユッ・・・！！」

「みんなでトウモローおおっ♪ンヒイイッ♪」

と声を揃えたエール達はその怒張からビチャビチャと噴水のように白濁液を撒き散らす。

本当に無残で見るに堪えない光景だ。まなつでさえ、言葉を失って固まってしまっていた。

「・・・キュアスター達はどうなったんだ・・・？」

あすかの問いに、キュアグレースは悲しそうに首を振る。

「へ、変態ってレベルじゃないわよ・・・こんな異常よっ！異常っ！！」

憤ることを通り越して涙目になっているローラに、キュアグレース最後に忠告をしてそっと映像を閉じた。

「ブタキュアの侵略は突然、始まります。観ていただいたような戦いからとは限りません。普段の何気ないところからでも・・・襲ってきます。

だからサマー達も、けっして一人にはならず、皆で一緒に行動して十分に警戒して欲しいのです。一人になれば襲われる・・・そういう相手なんです」

グレースの言葉に、さんご達は深刻そうに頷く。

「じゃあ大丈夫だね！私達トロピカる部はいつも一緒にいるから！何も問題ないよねっ！」

まなつはすぐに元気を取り戻して、胸を張った。  
あすかやローラは不安げだ。

「じゃあ・・・お手洗いに行ってくるね」

「ちょ、ちよつと待ってっ！さっきの話を聞いてたかつ！？」

さっそく空気を読まずに単独行動しようとするみに、あすかは焦る。

「だ、大丈夫。私も・・・行ってくるから」

とさんごがさかさずフォローする。

まなつやローラに振り回されてばかりのさんごだが、その分カバー力は高い。

二人は連れ立って、トイレへ向かった。

トイレの中頃まで来た時、不意にみのりは眼鏡を光らせながら振り向いた。

「やっぱり・・・思ったとおり・・・着いてきた」

「え・・・？」

「ちんぽるー！ちんぽるー！！」

みのりが突然に拳を突き上げて、叫びだした。

その顔には怪しげな笑みが浮かんでいる。

何よりも恐ろしいのは・・・その華奢な身体に似つかわしくもないイチモツが彼女のスカートを押し上げて現れたことだ。

「ええっ・・・！？」

何が起こったのか分からないと驚くさんごに、みのは黒い液体を纏わせながら迫る。

「二人になっても、一緒。一人が獲物になるだけ・・・ふふっ♪さんごも早くブタキュアになろう♪」

お母さんも犯してあげたら、すぐにケツハメ大好きな変態っ子になったし。

おとぎ話なんてくだらない。やっぱりリアルチンポが一番なんだからっ♪」

「ま、待ってくださいっ・・・！」

普段大人しいさんごが声を振り絞って止めようとするが、みのりはさんごを犯すことにときめいて聞く耳を持たない。

それどころかフタナリチンポから期待の先走り汁を零し始めていた。

「覚悟して・・・怖いのは一瞬だけだからあ♪」

「わ、私だっつ・・・お母さんを犯した時い♪  
すぐく気持ちよかったからあ・・・教えてあげたくっつえ♪」

デロオッンッ♪

「さ、さんごっ！？」

突然のさんごの告白と飛び出したフタナリチンポに驚いたのはみのりだった。

飛び出したさんごチンポと、みのりチンポの鈴口が触れ合って、キスしたようになる。

「新しいメイクを教えてあげたんだあっ♪  
白濁ザーメンメイクう、顔射してえ・・・塗りたくっつてあげるのお・・・」

せつかくキレイにしてあげたのに、お母さんったらペロペロ舐めて台無しにしちやた。

でもザーメンって美味しくってトロピカっちゃうからあ・・・仕方ないんだけどお♪」

ウツトリと母親を穢した時のことを口にするさんごの顔は愉悦に赤らめていた。

「わかるう♪プリプリザーメンっつてえ・・・何よりも興味深いよねえ♪」

なんだあ・・・さんごもブタキュアだったんだっ♪私と一緒にのお・・・ペーニッツ様の牝豚奴隷♪」

「うんっ！でも残念・・・」

みのりん先輩をペーニッツ様に捧げようと思っつたのにい・・・」

「そ・・・それは私だっつ・・・」

「いいじゃんっ」

二人で残りの子達を墮としたらあ♪」

「！！」

みのりの後ろからスツとそのフタナリチンポに手が伸びた。

黒い衣装に身を包んだその手はみのりチンポを、手際よくシュツシュツと扱き上げる。

「おっ♪ほっ♪・・・手コキありがとうございますうっ！ヤムヤムう♪」

「貴方も・・・二人で協力して襲った方が効率がいいわ」

さんごチンポにも、同じく背後から別の黒い手が差し伸べられた。

シコシコと上下させて扱かれるたびに、さんごも「しゅっごっ♪しゅきいっ♪スパイシーの手コキい♪」とよがる。

シュツシュツ・・・♪

シコシコッ・・・シコシコッ・・・♪

みのりとさんごはそれぞれ弓なりになりながら、二人のブタキュアに身体を預けた。

「すごい豊作だよ、ね♪」

この世界のプリキュアってっ！みんなこんなにデッカイふたなりチンポ実っちゃってさっ♪

パパイヤチンポってえ触れてるだけで、ヨダレ出ちやうもんっ♪」

「コーラルチンポだって負けていないわ。」

こんなにピンピンなのに、どこか清涼感があって爽やかなの。24時間ハメていたくなる・・・最高の変態チンポだわっ♪」

「おひよおっ♪すきいっ♪」

「うひいっ・・・！私もスパイシーとずっと繋がっていたいっ♪」

ヤムヤムとスパイシーは自分が墮としたプリキュアを満足げに褒めていた。

みのりとさんごもそれに応えるように、ガクガクと身を震わせながら喜ぶ。

「イキますうっ♪イツちやううっ♪」

「私もおおっ♪もう我慢できませんっ♪」

「いいよっ！イツちやいなっ！！」

「コーラルチンポのドバドバ大量ザーメン、見せてあげて♪」

限界を迎えたみのりとさんごは、目を見開きアへ顔を晒しながら、さらに仰け反った。

「イクううっ！！」

ドピュリユウウウツ・・・♪

信じられない量のザーメンが、お互いの身体に降り注いだ。

トイレ中を白く染め上げる勢いで、放たれていく精

液を浴びて二人は満面の笑みを浮かべていた。

「ふふっ♪さあ・・・後の3人。」

サマー、フラミンゴ、ラメールと一緒に墮としましよ」

「うんうん。あの3人のフタナリチンポもきつと美味しいよおっ♪」

デリシヤス、独り占めしたくなるうっ♪」

期待に胸を膨らませる二人に、みのりとさんごも目を輝かせる。

そしてお互いの精液を・・・さんごママがやったように、ペロペロと舐め取って悦に浸っていた。

「ただいま、長くなっちゃった」

「わ、私も・・・したくなって・・・」

そそくさと帰ってきたみのりとさんごは申し訳なさそうに頭を下げた。

「全然、大丈夫だよっ！」

待っている間にこの鏡の使い方も教えてもらったし！便利なんだよっ！他のプリキュアの世界も見れるんだっ！」

オーシャンプリズムミラーをクルクルと無邪気に回すまなつに、二人は愛想笑いを浮かべた。

（まなつはいつでも騙せるから・・・あすかを仲間

に引き入れて邪魔されない方が先決♪」

（じゃあ、私はローラさんを♪ふふっ、人魚だとフタナリチンポはどこから生えてくるのかしら♪）

と心の中で暗躍しているみもりとさんごはさっそく行動した。

「あすか、言いくいことなんだけど・・・」

道すがらに見た百合子の様子がおかしいの・・・  
テニスラケットを股間に押し付けて・・・ヘコヘコ  
って・・・あれはブタキュアのせいじゃないかって

みもりはあすか籠絡の為に、白鳥百合子を予め襲って手駒にしていた。

あすかを誘い出した後は、油断を誘い二人で羽交い  
締めにする手はずだ。

「ローラ、まなつのお母さんと私のお母さんがホー  
ムステイの件で聞きたいことがあるんだって。  
大変な時だから後にして欲しいって言ったんだけ  
ど・・・聞いてくれなくて・・・  
一緒に来てくれる？」

さんごは自分の母親に命令して、まなつの母、夏海  
碧を襲って仲間にするように仕向けている。  
だからローラが畏にかかれれば、すぐにブタキュアに  
墮とすことが出来る。

二人の計画は完璧だ。  
そしてあすかやローラが断らないことも計算通りだ。

「あれ？二人とも、変な匂いがするよ？」

クンクンっ・・・これ・・・何の匂いだろ・・・？」

「っ！！」

みもりはまなつの鼻が利き過ぎることを計算に入れ  
ていなかった。

まなつが感じ取ったのは、さっき出した精液臭だ。  
乾かしていたはずだけど、誤魔化しきれていなかった  
のだ。

「そういえば・・・変わった匂いが・・・？」

「そうね。さんごもこの生臭いような・・・匂いが  
体中から？」

あすかとローラにも気付かれた。  
怪しまれている・・・

（ま、マズいわ！精液臭だって気付かれたら・・・  
きっと私達の正体にも感づいちやうっ・・・！）

みもりが焦って取り乱したその時だった。  
ドゴオッソッ！と大きな爆音と地響きが3人の関心  
をひいた。

「な・・・なんだっ・・・！？」

部室を5人が揃って飛び出す。  
空にはミラーの中で見た変態衣装に身を包んだプレ  
シヤスとファイナールが見下ろすように浮かんでいた。

そしてその周りには、ノーブル学園の薄紫と白を基

調とした制服に身を包んだ4人が並んでいる。

「あの子って・・・！キュアフローラ？」

まなつはミラー越しに他の世界のプリキュアを見て  
いたから見覚えがあった。

「じゃあ、みんな見せてあげて♪  
素敵な笑顔を、ね♪」

胸元から黒く濁ったプリンセスパフュームを取り出  
した4人は、「ブタキュア・プリンセスエンゲージ！」  
の掛け声と共に中身の液体をぶち撒けて自身へと纏  
わせた。

ドレスアップキーは使わない。  
ブタキュアには必要ない。自分を彩り着飾る衣装は  
ただ一つだけなのだから・・・。

黒い変態ドレスが4人の身体に纏わりついていく。  
プレシヤスやファイナールよりも、大きくまさにプリ  
ンセスといったイメージのフォルムをしている。

だが曝け出された乳房にツンと尖った乳首には黒い  
ピアスが禍々しく嵌っている。

そして剥き出しのフタナリチンポにも黒いリボンが  
施されていた。

大きなドレスの割に、お尻まで丸見えで破廉恥この  
上ない。

だが4人は自信ありげに胸を張る。

「肉ピラ咲きほこる花のプリンセス！  
キュアフローラ！」

「マン汁澄みわたる海のプリンセス！  
キュアマーマイド！」

「アへ顔きらめく星のプリンセス！  
キュアトウインクル！」

「フェラ舌真紅の炎のプリンセス！  
キュアスカレット！」

「淫らに！卑しく！下品に！  
♪！プリンセスブタキュア♪」

と変身口上まで酷く卑猥に変貌していた。  
そしてプリンセスらしくキチンとドレスの端を持ち  
ながら、お辞儀をする。隠すところが隠せていない  
変態ドレスでのお姫様作法はより扇状的だ。

「みんなっ！！戦うよっ！！」

呆気に取られている仲間を鼓舞するように、あすか  
がトロピカルパクトを取り出す。

「おおっ！怖いな。  
だが我々の目的は君たちと争うことじゃない。  
一人でも多くの牝豚を犯し、白濁液でパフェみたい  
にしてあげることだ♪」

君たちのような・・・ね。どうだ、素敵だろう？」  
キュアファイナレがあすかを牽制する。  
そしてファイナレは黒い液体を器用に操り、自分の  
股間へ集めた。

ヌラリと光るイチモツが、その中から現れる。

ブタキュアは襲いたい獲物がいればそれに応じて、  
自在にフタナリチンポを作り出すことが出来る。

「なんて醜悪な・・・！見ていられないっ・・・！」  
と、あすかが目を背けるが、ファイナレはそんな様  
子に「フンっ！」と鼻で笑う。

「フラミンゴおろ、いやでも見ないといけないんだ  
から無下にしないで。だつてえゝこれからあゝ♪  
皆で手分けして、あおぞら市をペーニッツ様の下僕  
に染め上げちゃうんだからっ♪」

「っ！？」

キュアプレシヤスが指を打ち鳴らすと同時に、キュ  
アフローラ達は三方に飛んでいく。  
そしてプレシヤスとファイナレも後を追った。

「しまったっ！みんなっ！！別れて追うよっ！！」

「うんっ！街の皆を守らなきゃっ！」

5人は変身して、それぞれ散り散りになる。  
フラミンゴはパイヤと、ラメールはコーラルと一  
緒にブタキュア達を追った。

その中でもサマーは突出していた。  
プレシヤスが飛び去った方角・・・それは家のある  
方だったからだ。

「お母さん達にっ！酷いことはさせないっ！」

「この子っ・・・！？」

プレシヤスに追いついたサマーは、すかさず蹴りを  
繰り出した。そして受け止めたプレシヤスを翻弄す  
るように、足を絡めそのまま投げ飛ばした。

「っ！！？」

「舞え、花よ！」

プレシヤスを援護するように、フローラが突風を巻  
き起こす。だがその花の嵐の中でも、サマーは器用  
にグルグルと自分の身体を回転させて、フローラに  
も突っ込んできた。

「きゃあっ！！」

「キュアサマー・・・強い子だね♪」

この子を犯してあげたらあ・・・どんな声で鳴くの  
かな？

ああっ・・・美味しそうお♪はらぺこつた♪」

ウツトリとしながら、プレシヤスはサマーに殴りか  
かった。

20000の数字が浮かぶ必殺パンチは当たれ  
ばタダでは済まない。

だがサマーは天性の戦闘スキルを発揮した。  
踏んでいたフローラの変態ドレスの裾を持つと、そ  
のまま振り回してプレシヤスを跳ね除けたのだ。

「そうらあゝっ！！」

「ご、ごめらんっ！プレシヤスっ！！」

フローラと共に吹っ飛ばされたプレシヤスは壁に打ち付けられた。

「本当に強いっ・・・ペーニツツ様の為に絶対に手に入れたいわ・・・サマー。」

どう私達の仲間にならない？

いつでも美味しいものが食べれるし、気に入った子がいたら犯し放題。

こんなに幸せなことってないんだから♪」

プレシヤスはフローラの体勢を整えてあげながら、サマーに手を差し伸べる。

サマーの強さに素直に感激していたからだ。

ペーニツツ様の下僕として、手元に置いておきたい逸材だ。

「そんなの・・・全然、トロピカってない！」

黒一色に染め上げた世界なんて、つまんだだけだよっ！」

太陽を背にキラキラと輝きを放つサマーは、真っ向から否定してくる。

付け入る隙なんて微塵も感じさせない凄みが彼女にはあった。

「いいよ、サマー。」

何が正解か・・・皆に聞いてみたら。

ふふっ♪貴方一人でなんてトロピカれないでしょ？

皆と一緒にじゃなきゃ・・・」

含みのある邪悪な笑顔を浮かべながら、プレシヤスとフローラは黒い水たまりの中に消えていく。

「あつま・・・待ってっ！！」

サマーが追いかけてようとする手が届く前にプレシヤス達は姿を消した。

「ん・・・！？」

持ったままだったオーシャンプリズムミラーが光り輝いて反応している。

すぐに覗きこんだサマーの目の前に、深刻そうな顔をしたグレースが映り込む。

「ハアハア・・・キュアサマー・・・」

ぶ、無事でよかった・・・  
実は：私の仲間達がブタキュアにされていたの・・・

グレースは悔しそうに顔を伏せる。

「ど、どういうこと！？」

「ブタキュアは巧妙に正体を隠していて・・・

アースは普段と変わらないように見えたのに・・・  
フォンテーヌとスパークルを襲ったんです。

後ろから突然・・・  
お母さん達もアースの言いなりになって、一緒に襲

いかかってきて・・・」

震えるグレースにサマーは「しっかりっ！負けない

でっ！」と鼓舞する。

グレースもそれに応えるように、大きく頷いた。

「とにかく気をつけてくださいっ！」

いつもどおりだと思っただけでも、実はブタキュアだった・・・ってことがあるんですっ！

知らない間に襲われてしまうかも知れません。  
誰がチンポル団で、そうじゃないのか・・・

もう誰にも分からない・・・」

不意に映像が途切れ、サマーは「グレースっ！？グレース！」と呼びかけるがもう応答はない。

皆を信じられなくなる・・・なんて、まなつには考えられない。

でも心配にはなる。

「合流しなきゃっ・・・！」

あおぞら市の中心街へと、サマーは駆け抜けていった。

大広場では、フラミンゴ、ラメール、パイヤ、コーラルの4人全員がサマーを待っていてくれた。

誰よりも信頼できる仲間たち。

太陽の光のように眩い様々な彩りが、彼女たちを装う。

トロピカルパクトで纏った綺羅びやかな色がサマーを安心させてくれる。

「皆！無事だったんだねっ！」

キュアグレースが言っていたんだ。

ブタキュアは変態じゃないフリをして、襲ってくるかも知れないって！



だから皆も気をつけて!!」

無邪気に手を振るサマーを眼下にしながら、ラメールはクスッ♪と吹き出すように笑った。

「そうね・・・私達も伝えたいことがあるの・・・」

4人はサマーを囲むように、降り立った。

無邪気なサマーの笑顔も、4人の様子に少し戸惑う。

「ああ。サマーは勘違いしているよ・・・  
正体を隠してブタキュアが襲わないといけない時は、  
どういう時か分かるかい？」

相手が逃げられてしまうかも知れない時さ♪」

フラミンゴが鼻で笑う。高圧的な態度はいつものあ  
すかさじやない。

「サマーは違うよね。  
もう逃げられない。だから・・・私達も気にする必  
要がない・・・♪」

パイアはケラケラと馬鹿にしたように笑う。

「みんな・・・どうしたの・・・？」

「こういうことっ♪サマー・・・私達に相応しい色  
はたった一つだけ♪  
世界を染め上げる色・・・真っ黒だけだよ♪」

「!？」

4人の変身が解け、綺羅びやかなプリキュア衣装が  
無残に散っていく。

そして彼女たちがサマーに突き出したトロピカルパ  
クトは、ウネウネと黒い何かが蠢く異様なものへと  
変貌していた。

「「トロピカルチェンジっ!・・・レッツメイク、  
タッチ♪」」

チーク!アイズ!ヘアー!リップ!ネイル!・・・  
そしてドレス。

4人が同時に黒いものを身体中に塗りたくっていく。

恍惚の表情を浮かべ、見せつけるように。

「そ・・・そんな・・・」

黒く染まっていく4人を前に、サマーはグレースの  
忠告が手遅れだったことを悟った。  
知らない間に・・・皆はもう・・・

「きらめく宝石!キラキラ中出し公衆便所、  
キュアコーラル!」

「ひらめく果実!セクハラ乳揉みし放題、  
キュアパイア!」

「はためく翼!全裸スカイダイビングっ、  
キュアフラミンゴ!」

「ゆらめく大海原!丸出しヌードイストビーチ、  
キュアラメール!」

彼女たちそれぞれのメイクは全て黒色に染まってい  
た。

コーラルの桃色の頬には黒いラインが引かれ、まる  
で悪魔のよう。

パイアの七色のマスカラもどす黒く怪しげだ。

フラミンゴの燃えるような髪も無残に黒ずんでいる。  
コーラルは指先をチラチラと顔先で動かして見せつ  
ける。

魔女のような黒い唇と、全ての爪にしっかりと塗ら  
れたダークマニキュアがもう彼女が、別のなにか。  
なんだと教えてくれる。

「ど・・・どうして・・・!？」

ついさつきまで・・・一緒にいたのにつ・・・」

サマー・・・まなつは訳が分からなかった。  
3方向に分かれてからそう時間は経っていない・・・  
それなのに・・・

慄くまなつの隙をつくように、黒い液体が彼女の身  
体を足元から這い上がり、トロピカルパクトを奪つ  
ていく。

自分の変身が解除されていることすら、今のまなつ  
には分からないぐらいにショックが大きかった。

「別れてすぐにあすかさんを押し倒したの♪  
もう凄い抵抗するから大変だったんだけど。  
でもレイプして中出ししまくってあげたら、自分か  
らありがとうって感謝してくれたの♪

チークっ♪」

コーラルは思い出し笑いを浮かべながら、まなつの頬に黒いラインを引く。

「ローラだってそう。」

騙したのねっ！って怒っていたけどお・・・私のデカチンポを目の前でチラつかせていたら、飢えた子犬みたいにしゃぶりついてきたわ♪  
可愛かったなあ、アイズっ♪」

パイヤは小さなお尻をフリフリと振りながら、まなつのまつ毛を黒く染める。

「ああっ！オチンポ様にハメられることがこんなに気持ちいいなんて、知らなかったんだ。」

本当に駄目なヤツだよ、私は。だからあ・・・コーラルが教えてくれたことは素直に聞こうと思ったんだ。

犯されるのも気持ちいいらしいけどお・・・犯すのはもっと気持ちいいんだって。

ふふっ・・・ヘアっ♪」

モシヤモシヤとまなつの髪を手ぐしでといていくフラミンゴは、フタナリチンポを髪へと擦り付けてくる。

髪の色も明るいオレンジに、黒が混ざり合っていく。

「ネイルっ・・・♪チンポ様を前にして、女王のプライドなんて無意味だわ。」

だって・・・トロピカってることなんてえ・・・このオチンポ様にしかないんだからあ♪

ああんっ・・・早く見せてっ！まなつの・・・サマ

ーのフタナリチンポおっ♪」

まなつのネイルを丁寧に黒く塗り、ラメールはそのままだまに、まなつの唇を奪った。

「んんっ！？・・・ぷはあっ・・・！」

黒いヨダレ橋がプルンと可愛いまなつの唇から淫靡に垂れ下がる。  
そしてその唇は・・・黒く妖艶に光っていた。

「リップっっ♪これでオチンポ様があれば完璧よ。まなつ♪」

まなつの身体はもう真っ黒になってしまっていた。トロピカルチェンジをする時のように、チーク、アイズ、ヘア、リップ、ネイルの全てを丁寧に染められてしまった。

「最後はドレスアップだよねっ！」

犯されて目覚めてっ！オチンポ様大好きっ子になるっ！

あははあっ！たまないっ！！」

「えっ！？いやああっ！！やめてええっ・・・！」

ズチュッ・・・！ズチュズチュッ・・・！！

まなつの背後にいたフラミンゴが我慢できずにまなつを犯し始めた。

「ず、ずるいっ！フラミンゴっ！！」

サマーの初めては私が貰いたかったのにつ・・・

仕方ないからあ・・・手コキで許してあげる♪」

コーラルはまなつの小さな手に、自身のごんぶとフタナリチンポを擦り付ける。

「なら私もお♪

ああんっ・・・♪サマーの手って冷たくって気持ちいいっっ♪」

すぐにアへ顔を浮かべて悦に浸ってしまうパイヤは、この中でも一番の変態だ。

「んんっ・・・！ど・・・どうなっちゃうのっ・・・私っ・・・！」

もうわかんないっ・・・なんにも分かんないよっ・・・！」

泣きじゃくるまなつに、ラメールは優しく笑いかける。

「簡単でしょ？サマーも私達と同じになるの♪

ペーニッツ様の為に生き、全ての牝を犯して捧げることが使命のブタキュアに、ね♪

ほらあ・・・サマーにも生えてきたあ・・・

あはあっ！すっごい立派なのがあっ！」

まなつは驚愕した。

自分の股間からスカートを押し上げて、フタナリチンポがせり出してきたからだ。

メイクでもうまなつの身体は作り変えられてしまっていた。

「いったただきまあすっ！サマー！  
私の高貴なお姫様マンコを、オナホ代わりに犯しな  
さいっ！！」

まなつには断る隙すら与えない。

「キヒヒヒ・・・」と悪い笑みを浮かべて、そのま  
まラメールはまなつチンポに跨った。  
ズニユウ・・・！ズチュズチュツ・・・！とすぐ  
に水音が響く。

「う・・・うわあっ！なにこれえ・・っ！！  
す、すごいいいっ・・・♪」

まなつは後ろからフラミンゴに、前からラメールに  
犯されて気持ちよくなってしまっていた。

こんな強烈なレイプのなかで気持ちよくなるのは、  
変になりそうだ。

それでも・・・もう逆らうことは出来なかった・・・  
おかしくなるのが、当たり前。にさえ思える。

「だって・・・こんなに気持ちいいんだもん♪  
オチンポって・・・トロピカってるう♪」

まなつは元気よく腰を動かし始めた。

「や、やるうっ♪搾り取られるっ・・・くふうっ♪」  
とフラミンゴのフタナリチンポにお尻をグリグリと  
擦り付ける。

「お腹の奥まで突かれるう♪最高のチンポよっ！さ  
すが私のお・・・サマーっ！」とラメールもまなつ  
の突き上げにガクガクと揺れる。

もう侵食され尽くしたまなつの格好は、あおぞら中  
の制服から、ブタキュアの姿へと変貌していた。  
すでに彼女が落ちきってしまった証拠だ。

「ときめく常夏！いつでもどこでもパコハメし放題  
っ！キュアサマー！  
あはあああっ♪」

みんなと同じように、プリキュアの変身を淫靡に改  
造した口上を叫びながら、サマーは絶頂に導かれて  
いく。

「みんなでえええっ、一緒にトロピカろおおっ♪」  
サマーの呼びかけに4人は頷いて、フタナリチンポ  
を漲らせた。

「イクウウツ！！・・・イツちやううっ・・・！！」

ドピュドピュ・・・ドピュウウウウツ・・・♪

5人は同時に射精して、黒く染まったサマーの身体  
をさらに白濁で汚していく。

だがサマーは顔についた精液を舐め取りながら、満  
足げに微笑んだ。

「最高にトロピカってるよねっ！  
ブタキュアって♪」

全てが満たされた気分。  
だけど・・・一つだけ心残りがある。

サマーはまなつの姿に戻り、4人から離れた。

「さ、サマー？」

少し不安そうにラメールがサマーの背中を見ている。  
まなつはオーシャンプリズムミラーを取り出して、  
ニタリと笑った。

「まだこんなハッピーなこと知らない・・・可哀想  
な子がいるんだから♪」

サマーは通信を再開した。  
グレースを此方におびき寄せる為だ。

ブタキュアにならずに戦う可哀想な彼女にもこの幸  
せを分けてあげたい・・・  
そういう気持ちでいっぱいだった。

「グレース、心配かけてごめんね。

こっちは大丈夫だったから・・・でも手助けはして  
ほしいかな・・・  
なかなか手強くて」

素直さが売りのサマーとは思えない、素の演技だ。

「わかりました。お伺いさせていただきます」

グレースも神妙に頷く。

サマーは心の中で、邪悪に笑った。たやすく畏にか  
かってくれたと。

「もういいよ、二人とも♪」

「！？」

「!!」

グレースの背後には、ブタキュアの姿のままのプレシヤスがいた。

「ペーニッツ様がいらっしやるわ。皆でお出迎えしましょう♪」

「ペ、ペーニッツ様がっ!?!」

グレースとサマーの目の色が変わった。

ブタキュアにとって、ペーニッツ様は何よりも偉大な存在。

会えるだけで、心が躍る。

黒い水たまりの中から、グレースとプレシヤスがサマーの前に現れた。

グレースも黒いブタキュア衣装に変わっていて、立派なフタナリチンポをおっ勃てている。

「なあんだ、グレースもオチンポ様の素晴らしさが分かってたんだあっ!」

私に分かせてあげようって思ってたのにっ!」

「はい・・・聞き分けのない私を教えてくれたのはプレシヤスなんだから。

感謝してもしきれないけど・・・この満たされた感じ・・・

くうんっ♪生きてるって感じがたまらないっ♪」

犯された時のことを思い出したのか、内股でブルブルと震えるグレースの股下からは注がれた精液がビ

チャビチャとこぼれ出ていた。

「ごめんなさいっ、プレシヤスう・・・

私はこんなに素敵なブタキュアを倒そうと・・・プリキュア達を集めてしまいましたあ・・・償っても償いきれない・・・ですう・・・」

泣きそうになるグレースに、サマーは「大丈夫だよ!」と浣刺と声を掛ける。

「どんなプリキュアだって、私がぶっ倒してこの元気チンポで分かせてあげちゃうからっ!」

剥き出しの胸を張り、フタナリチンポをギンギンにするサマーは頼もしい。

「それに多くのプリキュアを集めた貴女がいるから・・・」

警戒されずに罠にはめることだって出来るよ♪」

とプレシヤスは悪戯に微笑む。

もう何人ものプリキュアを・・・スパイシーやヤムヤム、ファイナールでさえ毒牙にかけてきた彼女には凄みがあった。

ツンツ♪

3人はフタナリチンポを重ね合わせていた。まるで三銃士が誓いあった時に剣を重ね合ったように、仲睦まじく。

仲良く先走り汁を擦り付け合いながら、絆を確かめていく。

彼女たちを囲むように、それぞれの仲間達も列をなして合流してきた。

ブタキュア達の花道が出来上がる。

そして、それは愛しいご主人様を迎える為の道だ。ペーニッツが空に出来た黒い輪から降臨する。

その神々しさに息を呑みながら、サマーとグレースは手をとりあった。

舌なめずりしながら、思い描くのだ。

キュアホイップを白濁ザーメンで滅茶苦茶にしてから、お捧げしたら喜んでくれるだろうか。

キュアブロッサムが下品にハメ乞いできるお利口さんに教育してから、お捧げしたら楽しんでくれるだろうか。

「見てください、ペーニッツ様♪私のお捧げする変態奴隷たちを♪」

プレシヤスが誇らしげに、自分たちを捧げること二人は憧れを感じていた。

それは他のブタキュアも同じだ。

我先にとお捧げしたい気持ちにかられる。ブタキュアの侵略は止まらない。この世からプリキュアがいなくなっても。ペーニッツ様が望むがままに・・・世界を暗黒に染め上げるのだから・・・

# あとがき

よ、あ、あ、あ

字が汚すぎて  
すいません...

一度、どうしてもプリキュアで悪堕ちを  
描きたかったのもあり今回描けて念願が  
叶いました！

心残りはフィナーレは出せましたが、  
あまねの状態でエロやれなかったこと...

オールスター要素もやりたかったことでしたが  
今回日高さんに小説書いてもらえたので  
本当に良かった！ありがとうございました！  
日高さん！！

そして、どうでも良い補足ですが、  
28ページの想定外のことというのは  
フィナーレを最初の接触で墮とせなかった  
ことです。

いやはや描写や説明含めて  
漫画は難しいですね><

来年もまた色々描いていきたいです！  
お手に取って読んでいただいた皆さま  
改めて、本当にありがとうございました！！  
来年もどうぞよろしく願います！！

さなつき

## 奥付け

- 発行・著者 さなつき
- サークル アヘアジフ
- Email [neko998-aheaji@yahoo.co.jp](mailto:neko998-aheaji@yahoo.co.jp)
- Pixiv 41042507
- Twitter @sanatuki0510

小説 デリパコいんべいど♪ふたきゅあ：

- 著者 日高久志
- pixiv <http://pixiv.net/users/4853918>
- ノクターン <http://xmypage.syosetu.com/x8371q/>



**制作**  
**アヘアジフ**

**この作品は**  
**二次創作であり**  
**原作とは一切関係ありません**

**複製・二次創作を禁止する**

